ＦＤ

プログラム番号　08202A

高専の新任教員を、どう育成するか？
―新任教員研修を作成しよう！―

■講師

坪井　泰士
（阿南工業高等専門学校　一般教科　教授）

広島大学教育学部卒業。高等学校教員を経て、1989 年度から阿南工業高等専門学校に勤務。学生による授業評価、ピアレビュー、ティーチング・ポートフォリオ等の授業改善方法の導入に携わるとともに、これらを用いた統合的授業改善システム（授業コンサルティング）を構築。2005 年度からは、寮務主事・広報情報室長・学生主事（いずれも校長補佐）を兼任。

■プログラム概要

新任教員は十分な教育経験（授業、校務など全般）を有さない場合でも着任後、すぐに教員として教壇に立ち、校務を任されます。着任時には、教務・学生・寮務の主事などから、2 時間程度の指導がありますが、後は OJT として各教員の自助努力に任される部分が大きいようです。また、その指導も、主事交代に伴い伝えられる内容が異なることが少なくありません。

一つの教育機関として、教育を実際に担う教員をどのように育成するかという視点を共有することが、大切なのです。各高専の抱える課題をベースに、それら課題を発見・解決できるよう新任教員を育成する研修が重要です。

本プログラムでは、高専の抱える課題に立脚し、それに対応できる能力の養成を可能とする新任教員研修に活用できるテンプレートを使用して、新任教員研修案テンプレートを作成します。参加者は、所属校の課題を確認し、所属校の新任教員研修（3 主事等からの着任時研修など）の概要を資料としてご持参ください。

■主な受講対象

現在もしくは今後、後輩の新任教員を迎えて導く立場にある教員

■本プログラムの到達目標

1. 所属校の課題を説明できる
2. その課題の発見・解決に必要な能力を説明できる。
3. その能力養成に有効な新任教員研修に活用できるテンプレートを使用して、新任教員研修案を作成できる。

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月20日（火）13：00～15：00
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　共通教育講義棟　2階　23番教室
定　　員　：　12名

ＳＤ

プログラム番号　08202～3B

改革戦略のつくり方序論①②

■講師

福島　一政
（追手門学院大学 副学長/福井大学 監事/愛媛大学客員教授）

立命館大学経済学部卒。1972 年度から 2008 年度末まで、日本福祉大学で大学職員として勤務。その間、庶務・経理・学生・施設・総務・研究情報・教学事務・財務などの業務を経験し、事務局長・執行役員・常務理事・学長補佐などを務め、教育を含む大学改革などに取り組む。2005 年から 2 年間、大学行政管理学会会長。2009 年度から 4 年間、学校法人東邦学園理事。2010 年度から 2 年間、国立大学法人愛媛大学監事。

■プログラム概要

「課題あって戦略無し」。皆さんの大学ではこのような状態になっていませんか？学内の課題は山積しているでしょう。加えて、文科省などからも大学改革の新しい課題を数多く突きつけられています。これらの課題を解決しようとしても、あまりに数多く、多岐多様過ぎて、どこから手をつけていいか悩むこともしばしばだと思います。たとえいくつかの課題を解決しても、新しい課題が次々と出てきます。そのうちに、一体何のために課題を解決しているのかわからなくなりませんか？課題解決の目的を見失わず、「選択と集中」ができる戦略プランを作成することができれば、いくら忙しい中でも力強い改革の推進に大いに役立つでしょう。本プログラムでは、SWOT 分析の方法、大学や各部署のミッション・ビジョンの設定から改革戦略実現マップの作成手法まで、具体的な事例で講義と演習をします。このプログラムは本来、30時間程度を要しますが今回は要約版とします。

■主な受講対象

職員（個別の政策立案はできるが、大学改革、教育改革、組織改革など改革戦略の立て方がよくわからない、という中堅職員）

■本プログラムの到達目標

1.戦略と課題の関係を目的と手段の関係と認識することができる。
2.自大学の強みや弱みなどの分析ができる。
3.改革戦略実現マップを作成することができる。

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月20日（火）13：00～17：30
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　愛大ミューズ　2階　M23教室
定　　員　：　20名

ＳＤ

プログラム番号　08202～3C

若手職員に知ってもらいたい『報・連・相』のコツ
ーもっと良くなる職場内コミュニケーションー①②

■講師

愛媛大学	総務部人事課給与チーム	サブリーダー	大塚　陽介
香川大学	教育学部総務係	係長	野口　里美
高知大学	総務部人事課人事管理係	主任	浜田　昌代
高知大学	法人企画課法人企画係	主任	宮内　卓也
高知工科大学	学生支援部就職支援課	主任	井村　公一
徳島大学	学務部入試課入学試験係	主任	根ヶ山　須美子
四国大学	総務・企画部総務課	係長	平野　法子
松山大学	総務部庶務課	課員	木守　武文

■プログラム概要

若手職員のみなさん、「報・連・相」という言葉を知っていますか？「報・連・相」とは、報告・連絡・相談の略称であり、多くのビジネス書などでその重要性が唱えられています。

しかし、日常業務において十分な「報・連・相」が行われていないことにより、業務に支障をきたしている実例が多くみられることも事実です。

このプログラムでは、SPOD 次世代リーダー養成ゼミナールを受講している第3期生8名が講師を務め、報告・連絡・相談とは何かを再考し、そのコツなどについてのレクチャーやワークを行います。

効果的な「報・連・相」について理解を深め、コミュニケーションに関する課題解決案を作成します。

■主な受講対象

30 歳未満の若手職員

■本プログラムの到達目標

1. 効果的な報告・連絡・相談の方法を説明することができる
2. 効果的な報連相を使って、コミュニケーションに関する課題を解決する方策をたてることができる

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月20日（火）13：00～17：30
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　愛大ミューズ　2階　M24教室
定　　員　：　28名

ＦＤ

プログラム番号　08202D

はじめてのラーニング・ポートフォリオ

■講師

山田　剛史
（愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 准教授）

神戸大学大学院総合人間科学研究科・博士後期課程修了。博士（学術）。島根大学教育開発センター講師・実施部門長、副センター長・准教授を経て、2011 年より現職。2012 年より教育調査・分析部門長、経営情報分析室室員を務める。著書に、『大学の IR Q&A』（共著、近刊予定）、『生成する大学教育学』（共著）、『大学生の学習・生活実態調査報告書』（共著）、『自己意識研究の現在 2』（共著）などがある。

■プログラム概要

近年の大学教育改革において、学びを通じて得た様々な力を可視化するための手段の一つとして「学習ポートフォリオ」が注目されています。学生が在学中に経験したこと、身につけたもの（学習の成果）を紙媒体あるは電子媒体（e-ポートフォリオ）によって蓄積していきます。学生はこの作業によって自らの学びを振り返り、意味づけ、自身の目標ややるべきことを明確にするとともに、就職時などにも活用することが可能になります。教職員にとっては、多様な学修履歴をもつ学生個々人の特性を踏まえて指導にあたることができるとともに、対外的な評価に対する教育成果（エビデンス）としても示すことができます。

本プログラムでは、こうした学習ポートフォリオの概論（特徴や事例等）を踏まえて、所属組織において望ましい学習ポートフォリオの作成や活用方法について共に深めていきたいと思います。

■主な受講対象

全教員・職員

■本プログラムの到達目標

1. 学習ポートフォリオに関する基本的な考え方や主な特徴（効用）について知り、理解することができる
2. 知識や実践事例を踏まえて、自組織における効果的な学習ポートフォリオをデザインすることができる

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月20日（火）13：00～15：00
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　愛大ミューズ　3階　M32教室
定　　員　：　50名

ＦＤ

プログラム番号　08202～3E

先達に学ぶ、卒前シミュレーション医療教育①②

■講師

池上 敬一
（獨協医科大学越谷病院 救命救急センター長 教授）

宮崎医大卒。大阪府立千里救命救急センター、大阪大学医学部附属病院特殊救急部、国立東静病院外科、済生会神奈川県病院外科、大阪大学医学部救急医学、杏林大医学部救急医学教室などを経て1999 年獨協医大越谷病院救急医療科助教授、2001 年より現職。この間 1993－95 年に米国ベス・イスラエル病院に留学する。現在日本医療教授システム学会代表理事、NPO 法人救急医療の質向上協議会代表理事を務める。

■プログラム概要

近年、医療教育においてシミュレーションが注目されている。本学においても昨年から愛媛大学教育改革促進事業(愛大GP)として「ハワイ大学医学部との共同開発による実践型卒前多職種連携教育プログラム」が採択される等その重要性は徐々に広まりつつあり、中でもコンピューターで制御され臨床現場で遭遇する重篤な病態を表現できる高機能シミュレータなどを使用した実地トレーニングに対する関心が高い。

本プログラムではこの分野の先達である獨協医科大学越谷病院の池上先生による講演、岡山大学地域医療人育成センターの万代康弘先生、高知県立大学看護学部の井上正隆先生による両大学で行われている卒前シミュレーション医療教育プログラムの紹介に加え、参加者体験型のデモンストレーションも行う。

■主な受講対象

卒前シミュレーション医療教育に関心がある医療者
（医療系教育機関の教員、医師・看護師等の指導者、管理者）

■本プログラムの到達目標

1. 医療教育における従来の教育手法とシミュレーション教育の違いを説明できる。
2. シミュレーション教育における学習環境の重要性を説明できる。
3. シミュレーション教育を効果的にするために必要な教授法の概要を説明できる。

■日時・会場・受講定員

日　　時 ： 平成25年8月20日（火）13：00～17：30
会　　場 ： 愛媛大学 城北キャンパス 愛大ミューズ 3階 M33教室
定　　員 ： 20名

ＦＤ・ＳＤ共通

プログラム番号　08202F

発達障がいのある学生をどう理解し、支援するのか

■講師

坂井　聡
（香川大学教育学部　特別支援教育講座　教授）

金沢大学大学院教育学研究科修了　香川県内の県立特別支援学校、附属特別支援学校で勤務したのち、香川大学教育学部へ。言語聴覚士、特別支援教育士スーパーバイザー、自閉症スペクトラム支援士エキスパートとしても活動している。

■プログラム概要

発達障がいということばをいろいろなところで聞いたり、見たりするようになってきています。2012 年の 12 月には、小中学校に特別な支援を必要とする児童生徒が 6.5%程度存在すると、文部科学省が公表しました。当然、大学へも進学しているはずです。

本プログラムでは、発達障がい（高機能広汎性発達障がい、注意欠陥多動性障がい、学習障がい等、知的な遅れはないが、発達に偏りをもっている人たち）について紹介するとともに、その特性についてわかりやすく解説し、共通理解しかかわることができるように、情報提供をしていきたいと思います。そのうえで、新しい障がい観であるICFについて確認し、学生たちが大学での教育課程に参加し、そこで活動できるようにするための具体的な支援方法についても考えていくこととします。

また、障害者の権利に関する条約と、平成 17 年に施行された発達障害者支援法、そして大学教育について、特別支援教育の観点からも考えてみたいと思います。そのなかでも特に学生一人一人のセルフエスティームを高めるための支援方法の在り方を提案していきたいと考えています。

■主な受講対象

教職員

■本プログラムの到達目標

1. 発達障がいについての簡単な説明ができる
2. 障がいとはどういうものなのか、新しい障がい観から説明できる

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月20日（火）13：00～15：00
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　校友会館　2階　サロン
定　　員　：　40名

ＦＤ

プログラム番号　08203A

学習評価の基本

■講師

山田　剛史
（愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 准教授）

神戸大学大学院総合人間科学研究科・博士後期課程修了。博士（学術）。島根大学教育開発センター講師・実施部門長、副センター長・准教授を経て、2011 年より現職。2012 年より教育調査・分析部門長、経営情報分析室室員を務める。著書に、『大学の IR Q&A』（共著、近刊予定）、『生成する大学教育学』（共著）、『大学生の学習・生活実態調査報告書』（共著）、『自己意識研究の現在 2』（共著）などがある。

■プログラム概要

なぜ学習の評価をするのでしょうか。学習の評価には、最終的な成績を評価する以外にも様々な目的や役割があります。本プログラムでは、学習評価の基本的基礎的知識である、学習評価の原則（何を、どのように、いつ評価するのか）、学習評価の方法（どのような方法や特徴があるのか）、よい試験を行うための留意点、学習評価の厳密化と効率化のためのツール（ルーブリック評価やピア評価など）といった内容について学びます。

実際に、自身のシラバスなどを元に学習評価を振り返り、参加者同士で共有しながら、学生の主体的な学びを促進するための学習評価について深めていきたいと思います。

■主な受講対象

学習評価に関わる教員

■本プログラムの到達目標

1. 学習評価の原則を説明することができる
2. 形成的評価と総括的評価の違いと重要性を説明できる
3. 多様な学習評価方法を知り、自らの授業で活用できる

■日時・会場・受講定員

日　　時 ： 平成25年8月20日（火）15：30～17：30
会　　場 ： 愛媛大学　城北キャンパス　共通教育講義棟　2階　23番教室
定　　員 ： 50名

ＦＤ

プログラム番号　08203D

大人数講義法の基本

■講師

小林　直人
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室長、
愛媛大学　医学部　総合医学教育センター長・教授）

昭和 63 年3月東京大学医学部医学科卒、平成7年東京大学にて博士（医学）の学位取得。平成 17 年度より愛媛大学医学部教授、平成21 年度より愛媛大学教育・学生支援機構副機構長と教育企画室長を兼任。教育担当理事（教育・学生支援機構長）のもと、大学全体のFDをミクロ・レベルからマクロ・レベルまで幅広く担当。

■プログラム概要

「よい」講義とはここでは、聞き手の学生にとって分かりやすく、知的な緊張感があり、さらに学生が参加する（した気にさせる）講義、ということにします。大人数での講義にはデメリットが多いのも事実ですが、現在の高等教育の実情を考えればこのような授業形態を避けることも不可能です。大講義室でも学生とコミュニケーションを取る方法、学生を積極的に講義に参加させる方法や授業効果を高める方法など、大人数の学生を聴衆とした「よい」講義をするために気をつけておかなければならない様々な授業スキルを、実例や実習を通して習得することができます。

また昨今の高等教育に強く求められている参加体験型授業/アクティブ・ラーニング型授業の一例として、受講者に実際にグループワークを体験していただきます。講義を受け持つようになって間もない教員の方はもちろん、自分の講義を振り返りたいと思われている方、また職員の方々も是非受講してください。

この研修では、参加者の皆さんが日頃実践している工夫も披露して頂きます。ご自分の経験（失敗談も歓迎です！）や他で見聞きした実践例を共有しましょう。きっと、明日の授業に役立つヒントが見つかります。

■主な受講対象

教職員。特に、まだ講義経験がないか数年未満の講義経験しかない教員の方を歓迎します。また、特に学務系の職員の方にとっては、大学の講義に今求められていることについて考えるよい機会になると思います。

■本プログラムの到達目標

1. 学生にとってよい授業とはどのようなものかを具体的に説明できる
2. 自分の経験に基づいて、大人数講義のメリットとデメリットを列挙することができる
3. 「学生中心の大学」の実現のためによい授業ができるようになる
4. 大講義室ならではと言える様々な授業スキルを、実際の体験を通して習得し自分の授業に生かすことができる

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月20日（火）15：30～17：30
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　愛大ミューズ　3階　M32教室
定　　員　：　50名

ＦＤ

プログラム番号　08203F

グラフィック・シラバスの作成方法

■講師

佐藤　浩章
（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室　副室長・准教授）

北海道大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学。2002年度から、愛媛大学で授業改善・カリキュラム開発・組織開発の方法、学生の学習・生活の支援に取り組む。この間、米国ポートランド州立大学客員研究員、名古屋大学客員准教授、北海道大学客員准教授、筑波大学客員研究員、国立教育政策研究所客員研究員、キングスカレッジロンドン客員研究フェローを兼任。

■プログラム概要

シラバスは、学習目標やスケジュールが書かれた、授業に関する最大重要文書と言えます。ところが、教員が期待するほどには、学生は注意深くシラバスを読んでいないのも事実です。たとえ、学生が読んだとしても、教員が持つ背景的知識を踏まえてシラバスの内容を理解することは困難です。グラフィック・シラバスとは、学習内容をフローチャート、ダイアグラム、樹形図として一枚のマップに表現したものです。学生はこれを読むことによって、学習目標や内容を効果的に理解できるだけでなく、容易に記憶にとどめることができます。また教員は、これを通して、自らの授業内容を精選し、よりスムースな流れで再構成を行うことができます。

本ワークショップでは、カナダ・マギル大学におけるワークショップで、グラフィック・シラバスを作成した講師の経験をもとに、その意義や特徴を説明します。その上で、参加者全員が自らの授業についてグラフィック・シラバスを書き上げることを目指します。

当日はご自身のシラバスを持参下さい。

参考文献　Nilson, Linda B. 2007, The Graphic Syllabus and the Outcomes Map, Jossey-Bass, San Francisco,CA

■主な受講対象

シラバスをより充実させたい大学教員

■本プログラムの到達目標

1. テキスト・シラバスの限界を説明できる
2. グラフィック・シラバスの特徴を説明できる
3. グラフィック・シラバスの作成手順を説明できる
4. 自らの授業についてグラフィック・シラバスを書き上げる

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月20日（火）15：30～17：30
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　校友会館　2階　サロン
定　　員　：　40名

ＦＤ・ＳＤ共通

プログラム番号　08211～2A

大学の危機管理

ー研究室マネジメントとハラスメント対応ー①②

■講師

佐藤　浩章
（愛媛大学教育・学生支援機教育企画室　副室長・准教授）
北海道大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学。2002 年度から、愛媛大学で授業改善・カリキュラム開発・組織開発の方法、学生の学習・生活の支援に取り組む。この間、米国ポートランド州立大学客員研究員、名古屋大学客員准教授、北海道大学客員准教授、筑波大学客員研究員、国立教育政策研究所客員研究員、キングスカレッジロンドン客員研究フェローを兼任。

阿部　光伸
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　特任助教）
東北大学大学院教育学研究科修了。専門学校での 15 年の教員生活を経て、平成 15 年から東北文化学園大学に勤務（学生課長、教務部長、学園事務局部長）。学生課長・教務部長時代に学生・教職員にかかる事件・事故等に対応。平成24年4月から現職。SD、学生リーダー養成を担当。（H24 年度 SDC 認定）

吉田　一惠
（愛媛大学　総務部人事課　課長（危機管理室　副室長兼務）
愛媛大学法文学部法学科卒業。愛媛大学理学部、医学部、農学部、研究協力部、国際交流センターで主に総務、国際交流を担当、広報室副室長（命室長）、広報室長を経て現職。広報室時から現在まで危機管理室副室長を兼務し、記者会見等を所掌、報道対応マニュアル等を作成、現在は、特に人権侵害事案に対応すると共に人材育成（SD）に取り組んでいる。

■プログラム概要

1）研究室マネジメント（前半担当：佐藤）
　日本の大学において研究室教育は、学生にとっても教員にとっても重要な教育の場になっていることが実証されています。しかしながら、研究室をどのようにマネジメントして効果的に教育をするかについて学ぶ機会は少ないのが実態です。また学生の多様化に伴い、研究室がうまく機能しない事例も増えています。本プログラムでは、研究室教育が現在置かれている環境を概観するとともに、愛媛大学で実施された研究室教育の調査や優良研究室の事例研究を通して、効果的な研究室教育のマネジメント手法を学びます。
2）ハラスメント対応（後半担当：阿部・吉田）
　あなたが、今、何気なく行っているその言動は、ハラスメントではありませんか？　本プログラムでは、大学等において、今、身近にあるハラスメントについて説明すると共に、ハラスメントが起こった時の初期対応、未然に防ぐための気づきについて考えます。特に、複雑かつ多様化するハラスメントについて、具体的事例を挙げながら、「ケースメソッド」により省察し、①ハラスメント認定のポイント、②ハラスメントが起きた場合の対処方法、③ハラスメント「施策」を導き出していきます。

■主な受講対象

全教職員

■本プログラムの到達目標

1）研究室マネジメント
　1. 研究室教育をとりまく状況を説明できる
　2. 自身の研究室の特徴を把握する
　3. 研究室への参加を促す仕組み（研究室ポリシーと年間行事）を作ることができる
2）ハラスメント対応
　1. ハラスメントについて、説明することができる
　2. ハラスメントの事実認定ができる
　3. ハラスメントに対処できる
　4. ハラスメントの予防対策を構築することができる

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月21日（水）10：00～15：00
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　共通教育講義棟　2階　23番教室
定　　員　：　40名

ＳＤ

プログラム番号　08211～3B

スタッフ・ポートフォリオ作成ミニワークショップ①②③

■講師

大竹　奈津子
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　助教／SPOD-SDC）
愛媛大学農学部生物資源学科卒業。愛媛大学連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程満期退学。2009 年より愛媛大学教育企画室において、授業コンサルティングや授業改善、FD・SD 等の教職員支援や学習支援に取り組む。専門は、高等教育開発学、水文学。

阿部　光伸
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　特任助教）
東北大学大学院教育学研究科修了。専門学校での15年の教員生活を経て、平成15年から東北文化学園大学に勤務（学生課長、教務部長、学園事務局部長）。平成23年度科学研究費補助金・奨励研究に大学職員として応募した「教職協働を実現するPBLを利用した大学職員の能力開発に関する研究」が採択。平成24年4月から現職。（H24 年度 SDC 認定）

清水　栄子
（愛媛大学　教育・学生支援機構教育企画室　助教）
安田女子大学文学部英語英米文学科卒業。桜美林大学国際学研究科大学アドミニストレーション専攻修士課程修了。広島大学教育学研究科人間科学専攻博士課程修了（博士（教育学））。安田女子大学職員（企画室・庶務課・教務課・学生課）、公立大学協会事務局主幹、独立行政法人国立高等専門学校機構阿南工業高等専門学校 FD 高度化推進室特命講師を経て、2013 年 4 月より現職。

上甲　功治
（愛媛大学　総務部人事課労務チームリーダー）
昭和61年国立弓削商船高等専門学校採用、学生課、会計課で勤務。平成10年愛媛大学転任後は、主に人事課、総務課に勤務。平成24年4月から人事課人材育成チームリーダーとして、職員の人材育成に係る業務を担当。平成25年4月から現職。SPOD講師養成研修修了（H22.5、H23.3、H24.2、H24.5）

玉岡　兼治
（聖カタリナ大学　図書課課長補佐）
愛媛大学大学院法文学研究科修了。平成2年から聖カタリナ女子大学（当時）図書課に勤務、現在に至る。学生の図書館利用指導について、画一的な説明ではなく、学生の実態・理解度に沿い、学生各自が使い方の分かる利用指導の方策・実践について着任以来取り組んできた。平成22－23年度 SPOD 次世代リーダー養成研修受講（1期生）、平成24年1月修了。

■プログラム概要

スタッフ・ポートフォリオ（以下、SP とする）とは、職員個々のキャリア形成に向け、これまでのキャリアを振り返り、業務内容や業績をエビデンスとともに整理し、これからのキャリアのゴール・ビジョンを記載する職員業績記録です。SP 作成は、個々の大学職員としての自己認識や方向性を明確にする一方で、適切な人事評価や人事異動等、組織における有効活用も期待されています。

本セミナーでは、SP の形式やその有益性、メンタリングの重要性等を学びながら、ワークショップ形式で、実際に SP を作成していただきます。また愛媛大学の導入事例もご紹介します。受講対象者ほか、SP に興味のある方のご参加をお待ちしております。

※SP 様式を事前に送付しますので記入しご持参ください。できる限りで構いません。
※PC をご持参ください。（貸出可：その場合は事前に事務局までご連絡ください。）

■主な受講対象

スタッフ・ポートフォリオを作成したい職員

■本プログラムの到達目標

1. スタッフ・ポートフォリオの有益性について説明できる
2. スタッフ・ポートフォリオにおけるメンタリングのコツについて説明できる
3. 自身のキャリアを振り返ることができる
4. 自身のキャリアのゴールについて考えることができる
5. 自身のキャリアのビジョンについて考えることができる
6. メンターと円滑なコミュニケーションができる
7. 円滑にメンタリングを行うことができる
8. スタッフ・ポートフォリオを作成することができる

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月21日（水）10：00～17：30
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　愛大ミューズ　2階　M23教室
定　　員　：　20名

ＳＤ

プログラム番号　08211～2C

若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座①②

■講師

秦　敬治
（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 副室長 教授）
西南学院大学商学部経営学科卒業。九州大学大学院人間環境学研究科発達・社会システム専攻修士課程修了。同専攻博士課程単位修得満期退学（教育学博士）。学校法人西南学院本部・大学経理課係長（主査）、愛媛大学経営情報分析室助教授を経て現職。

仲道　雅輝
（愛媛大学 総合情報メディアセンター兼教育企画室 助教）
日本福祉大学社会福祉学部卒業。熊本大学社会文化科学研究科教授システム学専攻博士前期課程修了。平成 7 年から日本福祉大学事務職員、平成 23 年より愛媛大学にて FD・SD や学生能力開発、授業コンサルテーションに携わる。研究課題は全学的ｅラーニング推進とICT 活用教育の普及。専門は教育工学、インストラクショナル・デザイン（ID/教育設計）。

松井 千代美
（松山大学 学生部 学生課 課長補佐）
大阪学院大学商学部卒業　松山大学職員に採用　経理・図書館・入試・教務・国際センター業務を担当、平成 24 年 4 月より 2 度目の学生課配属。学生との関わりにおいて、インテーカーの必要性を感じ、カウンセラーの資格を取得し、学生支援に取り組んでいる。SPOD 講師養成研修修了生。

■プログラム概要

判断・決断は、上司や役職者だけが行うものと思っていませんか。若手・中堅職員でも業務の中で、リーダーとして判断・決断を行う機会が多々あると思います。どのように判断・決断を行っていますか？判断と決断の違いとは何でしょうか？また、判断を速やかに行うには何が必要であり、決断を下すには何をもとに行えば良いのでしょうか？判断や決断が速やかな人は好感が持たれますが、その判断や決断が誤っていると信頼を失います。さらに、賛成者が多い、意見が出ない提案は必ずしも良いことだとは限りません。

本セミナーでは、判断力と決断力の違い、それらを効果的に行うために必要な条件を理解した上で、判断・決断を行う場面を設定した上で、実践トレーニングを行うことでスキルの向上を図ります。当日は、レクチャーやグループワーク、ディベートなどを組み合わせ、進めていきます。

■主な受講対象

自らが若手・中堅職員であると思われる方であれば、どなたでもOKです。

■本プログラムの到達目標

1. 判断力と決断力の違いを説明することができる
2. 組織の中で判断力・決断力が何のために必要なのかについて、説明することができる
3. 効果的な判断・決断を行うためのコツを説明することができる
4. 様々な場面で効果的な判断と決断を下すことができる

■日時・会場・受講定員

日　　時 ： 平成25年8月21日（水）10：00～15：00
会　　場 ： 愛媛大学　城北キャンパス　愛大ミューズ　2階　M24教室
定　　員 ： 60名

ＦＤ・ＳＤ共通

プログラム番号　08211～2D

教育改善のための IR 入門ワークショップ①②

■講師

中井　俊樹
（名古屋大学高等教育研究センター　准教授）
1998年に名古屋大学高等教育研究センター助手となり、2007年より現職。2003年から2005年に同評価情報分析室協力教員を併任。大学院教育発達科学研究科において高等教育マネジメント分野の授業を担当。著書に、『大学のIR Q&A』（共編著、近刊予定）、『大学の教務Q&A』（共編著）、『大学教員のための教室英語表現300』（編著）、『大学教員準備講座』（共著）、『成長するティップス先生』（共著）などがある。

山田　剛史
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　准教授）

神戸大学大学院総合人間科学研究科・博士後期課程修了。博士（学術）。島根大学教育開発センター講師・実施部門長、副センター長・准教授を経て、2011 年より現職。2012 年より教育調査・分析部門長、経営情報分析室室員を務める。著書に、『大学の IR Q&A』（共著、近刊予定）、『生成する大学教育学』（共著）、『大学生の学習・生活実態調査報告書』（共著）、『自己意識研究の現在 2』（共著）などがある。

■プログラム概要

IR（インスティチューショナル・リサーチ）は、学内外の多様なデータを用いて計画立案、政策形成、意思決定を支援するための情報を提供する活動です。情報を提供するという行為は、単にデータを提供するのとは異なります。大学にはさまざまなデータがありますが、多くのデータはある事実を表した無機質なものにすぎません。データから意味のある情報へと変換することが、IR の業務の本質であり醍醐味と言えます。

データを意味のある情報に変換するには、そのデータがどのような意味を持っているのか、他のデータとどのような関係があるのかなど、問題意識を持って仮説を立てたり解釈したりすることが必要です。また、データを加工して意味のある情報に変換するためには、各種分析手法も重要になります。

本ワークショップでは、IR の実践のための指針、IR の標準的なプロセスや具体的手法、IR の実践事例を通して、実際の教育改善の場面で活用できる IR の基本的な知識と技能を身につけることを目指します。

■主な受講対象

IR の実践に関心のある教員・職員

■本プログラムの到達目標

1. どのような指針にそって IR の実践を進めたらよいかを自分の言葉で説明できる
2. IR の実践の標準的なプロセスと課題を自分の言葉で説明できる
3. IR の知識と技能を教育改善の具体的事例に応用することができる
4. IR に関する多様な考え方や経験を尊重し、参加者間で共に学びあう雰囲気に貢献することができる
5. ワークショップ終了後も自ら学べるように、自身の課題と学習の情報源を把握する

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月21日（水）10：00～15：00
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　愛大ミューズ　3階　M32教室
定　　員　：　50名

ＦＤ・ＳＤ共通

プログラム番号　08211～3E

経営課題として中退対策に取り組むワークショップ
―3年で中退者を半減させる方法－①②③

■講師

山本　繁
（NPO 法人 NEWVERY 理事長／日本中退予防研究所所長／中央教育審議会臨時委員）
2002 年、NPO 法人 NEWVERY 設立。NEWVERY は、高等教育、アーティスト教育、社会教育のイノベーションを目的に活動する非営利組織。主な事業として、中途退学の抑制を通じて大学・専門学校の教育力と問題解決力の向上を支援する「日本中退予防研究所」。学生理解に基づく大学教員能力開発「FD2.0」。高校生にフダン着の大学に会いに行く機会を提供する「WEEKDAY CAMPUS VISIT」。地方出身の若手漫画家を支援する「トキワ荘プロジェクト」。地域を若者たちの“学ぶ場”に変える「おとな大学」。2012 年 7 月から文部科学省高等教育局専門調査員に着任（13 年 3 月まで）。同 9 月中央教育審議会臨時委員に着任。これまで週刊 AERA「日本を立て直す 100 人」、週刊ダイヤモンド「日本の社会起業家 30 選」などに選ばれている。近著に『つまずかない大学選びのルール』（ディスカヴァー・トゥエンティワン）。

■プログラム概要

本プログラムは 3 部構成をとる予定である。第 1 部では、中退のメカニズムや今日の学生の変化を理解する。第 2 部では、架空の教学 IR データから課題を抽出し、中退対策の方向性を話し合う。第 3 部では、3 年で中退者を半減する方法を解説。議論を通じてさらに理解を深める。

また、本気で大学教育改革を構想・実行し、3 年で中退者を半減するためのプログラムであるため、予算確保や合意形成のために「時には戦うことも辞さない」という方のみを対象にしている。「覚悟」はたった 1 回のプログラムでは醸成できず、覚悟ができなければ、中退者半減、大学教育改革といった大事業は実現するはずもないからである。

なお、講師は私立大学と専門学校における中退対策や大学教育改革にのみこれまで従事してきており、国公立大学や高専の方にとっては直接役立たないかもしれない。予めご了承いただきたい。

■主な受講対象

改革待ったなしの大学マネジメント層
（少人数クラスで行いますので、大学の教育改革に強い意志を持った方を歓迎いたします）

■本プログラムの到達目標

1. 受講者がマネジメントする大学の中退率が 2016 年度に半減する（対 2013 年度比）
2. そのためにやるべきことが明確に理解でき、それをやり切る覚悟ができている

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月21日（水）10：00～17：30
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　愛大ミューズ　3階　M33教室
定　　員　：　20名

ＦＤ

プログラム番号　08211～2F

ティーチング・ポートフォリオ作成ミニワークショップ①②

■講師

栗田　佳代子
（東京大学　大学総合教育研究センター　特任准教授）

東京大学大学院教育学研究科修了後、カーネギーメロン大学 Visiting Scholar、大学評価学位授与機構研究開発部准教授等を経て、2012 年より現職、博士（教育学、2002 年、東京大学）。現職では、大学教員を目指す大学院生を対象とした「フューチャーファカルティプログラム」を担当。専門は教育・心理統計、ファカルティ・ディベロップメント、教員評価。P・セルディン氏に師事し、ティーチング・ポートフォリオ、アカデミック・ポートフォリオの”正しい導入”について、ワークショップ開催や翻訳、講演等を通じた実践的な研究を行っている。

■プログラム概要

個々の教育活動をいかに把握し、改善や評価、共有につなげるかは、現在の高等教育機関の抱える重要な課題の一つです。本プログラムでは、この課題に対応し得る有力な手法の一つであるティーチング・ポートフォリオ（以下 TP）について学び、考えます。TP とは「自らの教育活動について振り返り、その自らの記述をエビデンスによって裏付けた厳選された記録」です。その TP の基本的な特徴や構造、目的と意義について学びます。また、組織にとってどのような効果がもたらされるのかについて理解を深め、その効果が正しく得られるために機関として整えるべき体制や導入方法についてもとりあげます。

TP 作成体験では、ご自身のミニ TP を作成します。「もっとも力をいれている講義あるいは教育活動」のシラバスあるいはそれに類するものをお持ちください。作成体験では、きっとご自身についての発見があります。

■主な受講対象

全教員、教育活動を俯瞰あるいは可視化したい方。
教員を対象としていますが、職員の方も受講可能です。

■本プログラムの到達目標

1. ティーチング・ポートフォリオ(TP)の特徴と基本的構造を他人に説明することができる
2. TP の作成体験(ミニワーク)により、自分の教育についてあらためて振り返り教育理念について整理を行うことができる
3. TP の教員にとってのメリット、組織にとってのメリットを挙げることができる
4. TP の可能性について所属の文脈において考えるきっかけを得ることができる

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月21日（水）10：00～15：00
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　校友会館　2階　サロン
定　　員　：　40名

ＳＤ

プログラム番号　08211～3G

学務系プログラム（レベルⅠ）

①学生支援概論　②入試情報調査論　③学生相談入門

■講師

米澤　愼二
（愛媛大学　教育学生支援部　部長/SPOD-SD コーディネーター）
愛媛県立川之石高等学校卒業後、国立大洲青年の家採用、国立特殊教育研究所、香川医科大学（現香川大学）、東京医科歯科大学、愛媛大学で勤務、主に人事系を中心に業務を行ってきたが、国立大学法人化後、広報室長、総務課長（この間危機管理室長兼務）、人事課長、教育学生支援部次長を経て現職。SPOD－SDコーディネーターとして認定され活動している。

菊川　昭治
（愛媛大学　教育学生支援部　次長兼教育センター事務課長）
愛媛大学法文学部文学科卒業、同大学法文学専攻科史学修了後、同大学教養部に採用され、工学部、入試課において教務、厚生補導、入試関係業務(計 17 年)を担当、総務部企画室、学術情報部、総合情報メディアセンターにおいて情報化推進業務(計 15 年)を担当の後、入試課(3 年)を経て現職。

野本　ひさ
（愛媛大学　教育・学生支援機構　学生支援センター副センター長/教授）
愛媛県立医療技術短期大学（現大学）を卒業し看護師として勤務後、愛媛大学医療技術短期大学助手、愛媛大学医学部看護学科助手を経て同准教授として約 15 年間看護教育に携わる。主に看護実践力の基礎となるクリティカル・シンキングや人間関係論を担当してきた。平成 16 年度より愛媛大学学生支援センター副センター長を兼任し、22 年度には現職として学生支援に専門的に関わるようになる。

■プログラム概要

学生支援とは、学生の人間力を高め人間性豊かな社会人を育成するために大学が組織的かつ総合的に行う活動である。学生に対する支援も多様化し、学生は放っておけば自然に大人になる時代ではなく、今は大人への道筋で少し手助けをしないといけない場面が多々ある。本プログラムでは学生支援を担当する職員として基本的な知識を学ぶ。

一方、教育研究活動等の情報の公表が義務付けられたことを契機として、大学職員として情報収集や情報発信は重要な業務となっている。本プログラムでは、主に入試情報を事例として、教育情報の活用方法について学ぶ。

いずれのプログラムもワークを取り入れた実践的なものとし、自大学における日常業務に生かせるものとしている。

■主な受講対象

初めて学務系業務を担当することとなった職員
大学に採用され、1年目から3年目程度の職員

■本プログラムの到達目標

学生支援概論
1. 学生支援業務の概要を説明することができる
2. 学生対応にかかる現状・問題点を説明することができる
3. 学生生活にとって必要な情報を提供することができる

入試情報調査論
1. 受験生、保護者、高校等のニーズについて情報収集することができる
2. 入試に関するデータを収集することができる
3. 入試成績と入学後の成績等の情報を収集することができる

学生相談入門
1. 現状の学生の生活実態を説明することができる
2. 学生からの要望に適切に対応することができる

■日時・会場・受講定員

日　時　：　平成25年8月21日（水）10：00～17：30
会　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　共通教育講義棟　1階　12番教室
定　員　：　40名

ＦＤ

プログラム番号　08213A

プログラム名：教えずに学ばせる授業
ー自律学習プログラム入門ー

■講師

坂田　浩
（徳島大学 国際センター 准教授）

1994 年 3 月　福岡教育大学 教育学研究科英語教育専攻修了
1996 年 4 月　徳島大学総合科学部　講師
1998 年 4 月　徳島大学総合科学部　准教授
2002 年 4 月　同大学国際センター　准教授

■プログラム概要

英語教員が学生から打ち明けられる悩みの中でも、「英語の勉強をしようと思っているんですが、なかなか続かなくて･･･」、「英語の勉強をやり始めたんですが、良い勉強方法が見つからなくて困っているんです･･･」といった学習方略に関する悩みは、よく耳にするものではないかと思います。今回紹介する「Learning How to Learn」 は、そのような悩みを持つ学生の継続的で自律的な英語学習を支援するために作られたワークシートで、授業中の学習支援だけでなく、授業外での学習カウンセリングなどでも広く応用できる可能性を十分に秘めていると考えています。

自律学習は、学習のプランニングや見直し、学習行動の形成・維持を重視する点で、自学・自習とは異なります。本ワークシートは、ビジネスや人材育成の場面で用いられているセルフ・コーチングという考えを基に、（1）将来のビジョンを作る、（2）学習目標を設定する、（3）学習計画を策定する、（4）学習を実践する、（5）評価・修正を行う、（6）学習を習慣化する、という 6 つの項目を基に構成されています。実際のワークシートでは、上記の１～５項目に対応するワークが準備されており、例えば「将来のビジョンを作る」という項目に対しては「Future MyScope」を、「学習目標を設定する」に対しては「Can-do List」を、「学習計画を策定する」に対しては「3 つの学習モジュール」というようなワークを準備しており、学習者が教員の支援の下、同じ学習目標を共有するクラスメートの意見も参考にしながら、効率的に自律学習を計画・実践できるように設計しています。

以上のように、今回は、上記「Learning How to Learn」の概要を中心に授業実践を紹介するものですが、全体のシラバスや実践上の工夫などについても紹介したいと考えています。本授業実践の効果については現在調査中ということもあり、具体的なものを提示するのは難しいかもしれませんが、学生からのフィードバックなどを基に、4 年間にわたる本授業実践を通して見えてきたものについて報告するようにしたいと考えています。

■主な受講対象

自律学習について考えてみたい方、英語学習を始めてみたいと考えている方なら誰でも

■本プログラムの到達目標

1. 自律学習に対する具体的支援例を学ぶことができる
2. 自律学習、授業内学習、授業外学習の関連性について学ぶことができる
3. 参加者自らが抱く「学習」に対する固定概念を見直すことができる

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月21日（水）15：30～17：30
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　共通教育講義棟　2階　23番教室
定　　員　：　50名

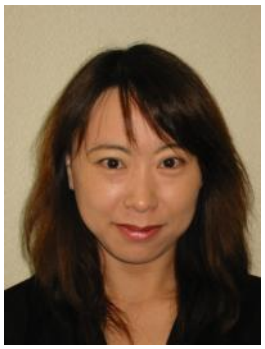
ＳＤ

プログラム番号　08213C

社会連携系プログラム（レベルⅠ）　社会連携基礎

■講師

土居　修身
（愛媛大学社会連携推進機構　副機構長　教授）
2010年まで経済産業省に勤務。本省、四国局において、産業振興、産学官連携を中心に官の立場で政策立案・展開に従事。愛媛大学においては、社会連携推進機構副機構長として学内コーディネータを統括。学外においても、愛媛県の産業技術力強化戦略策定会議の座長を務めるとともに、全国コーディネート活動ネットワークの有識者会議メンバーとして我が国全体の産学官連携コーディネーションの在り方について議論に参加するなど、社会連携を巡る幅広く活動を実施。



兒玉　直子
（愛媛大学社会連携支援部社会連携課契約　知財チームリーダー）
松山商科大学卒業後、愛媛大学に採用。愛媛大学において会計系の仕事に長年携わり、平成23年4月より契約・知財関係の事務を担当。

■プログラム概要

まずは、大学の社会連携とは何か、何故社会連携なのか、どのような歴史的経緯があるのか、等社会連携を巡る基礎的な認識を深めて頂きます。研究分野や教育分野、これらをサポートする事務分野の方々も、このような基礎的認識を深めて頂くことにより日常の諸活動の幅が広がると考えています。

次いで、主題である大学の社会連携事業が抱えている今日的な課題について問題提起させて頂き、その解決方策についてグループワークを行って頂きます。参加者が自らの課題として受け止め、その解決策を探る議論に参加することにより、チームとしての問題解決力をつけるとともに、チームに貢献することの重要性の理解向上に繋がると考えています。

最後に、社会連携（特に産学連携）の世界で話題になることの多い様々な概念、用語について解説します。社会連携虎の巻です。「これで貴方も社会連携通」がキャッチフレーズです。

■主な受講対象

大学等の社会連携活動に従事されている方、関心を持たれている方が中心になると思いますが、教員、事務職員を問わず、社会連携初心者の方も大歓迎です。

■本プログラムの到達目標

1. 社会連携を巡る基礎的な認識を深めることができる
2. 大学の社会連携事業が抱えている今日的な課題について自ら認識することができる
3. 大学の社会連携事業が抱えている今日的な課題について、その解決方策を挙げることができる
4. グループワークによって、チーム全体としての問題解決力、チームに貢献することの重要性が理解できる
5. 社会連携（特に産学連携）の世界で話題になることの多い様々な概念、用語を説明することができる

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月21日（水）15：30～17：30
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　愛大ミューズ　2階　M24教室
定　　員　：　40名

ＦＤ・ＳＤ共通

プログラム番号　08213D

「評価対応のための IR－システム形成とその課題－」

■講師

岩崎　保道
（高知大学 評価改革機構 特任教授）

同志社大学大学院総合政策科学研究科 博士（後期）課程修了。博士（政策科学）。
私立学校職員、琉球大学大学評価センター准教授を経て、2012 年度より現職。

■プログラム概要

認証評価や法人評価などの大学評価制度が導入されて平成 25 年度で 10 年目を迎え、評価制度がある程度、浸透した段階と思われる。一方、IR が大学業界で注目されており、エビテンス管理（データベース）を活用するなど「評価対応のための IR」を検討する価値は十分ある。

本プログラムでは、導入部分として、講師が大学評価及び IR の基本的な概要と両者の関係や IR の役割について説明する。そのうえで、次のグループワークを行う。受講生は、仮想の国立大学の職員として「評価対応のための IR」を構築するため、同大学における評価システムや IR に関する課題点の整理や改善の方向性を提案していただく。以上を踏まえ、講師は大学評価及び IR の関係や IR の役割についてまとめる。

■主な受講対象

大学評価（認証評価及び国立大学法人評価）や IR について、初心者レベルの知識を持つ方を対象とする（入門編）。そのため、評価担当経験者以外の参加も歓迎します。

■本プログラムの到達目標

1. IR の活用状況が説明できる
2. 大学評価における IR の役割が説明できる
3. 自身が「評価対応のための IR」にどのように関わるべきか考察できるようになる

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月21日（水）15：30～17：30
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　愛大ミューズ　3階　M32教室
定　　員　：　15名

ＦＤ

プログラム番号　08213F

理工系の講義形式授業の中で学生を輝かせるひと工夫

■講師

吉田　博
（徳島大学　教育改革推進センター　助教）
愛媛大学理学部数理科学科卒業。同大学院理工学研究科数理科学専攻博士前期課程修了。専門は大学教育と数学。2009 年度から、徳島大学で全学 FD の企画・運営に携わる。

榊原　暢久
（芝浦工業大学　教育イノベーション推進センター／工学部　教授）
北海道教育大学（札幌校）小学校教員養成課程卒業。
北海道大学大学院理学研究科数学専攻博士課程単位取得退学。博士（理学）。
旭川工業高等専門学校助手・助教授、茨城大学工学部講師を経て、2009 年 4 月より現職。日本高等教育開発協会（JAED）会員。専門は高等教育開発。

■プログラム概要

理工系の専門的知識の習得や研究を行っていく上で基盤となるのは、各学科の必須科目等で学ぶ基礎知識です。基礎知識を習得するための基礎科目の授業は、大人数、講義形式によって行われることが多くあります。本プログラムでは、このような理工系基礎科目における講義形式授業の中で、学生の主体的な学びや授業外学習を促進することに繋がるひと工夫を取り扱います。はじめに、少しの工夫で取り組める、広い意味でのアクティブラーニングの実践例をいくつか紹介します。続いて、紹介した実践手法を参加者の方々が授業において実施する場合に、障害になりそうなことや課題を共有し、それらを克服するためのアイデアを話し合います。参加者のみなさんがアイデアを持ち寄ることで、自身の授業における課題解決のヒントや、今後の新しい実践のヒントが見つかることを期待しています。

■主な受講対象

・自身の理工系の講義形式授業の中で実施できる、広い意味でのアクティブラーニングの手法を知りたい教員
・自身の理工系の講義形式授業の中にアクティブラーニングを取り入れる上で、何らかの障害があると感じている教員
・自身の理工系の講義形式授業の中で行っているアクティブラーニングの取り組みを他の教員と共有し、改善のヒントを得たい教員

■本プログラムの到達目標

1. 理工系基礎科目における講義形式授業でのアクティブラーニングを促す実践例を1つ以上持ち帰ることができる
2. 理工系基礎科目における自身の講義形式授業をふり返ることができる
3. 理工系基礎科目における講義形式授業の取り組みについて他者と話し合うことで、自身の授業における課題解決のヒントを得ることができる

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月21日（水）15：30～17：30
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　校友会館　2階　サロン
定　　員　：　30名

ＦＤ

プログラム番号　08221A

効果的なグループワークの進め方

■講師

大竹　奈津子
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　助教/SPOD-SDC）
愛媛大学農学部生物資源学科卒業。愛媛大学連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程満期退学。2009 年より愛媛大学教育企画室において、授業コンサルティングや授業改善、SD 等の教職員支援や学習支援に取り組む。専門は、高等教育開発学、水文学。

仲道　雅輝
（愛媛大学総合情報メディアセンター兼教育企画室助教）
日本福祉大学社会福祉学部卒業。熊本大学社会文化科学研究科教授システム学専攻博士前期課程修了。1995 年から日本福祉大学事務職員、2011 年より愛媛大学にて FD・SD や学生能力開発、授業コンサルテーションに携わる。研究課題は全学的eラーニング推進と ICT 活用教育の普及。専門は教育工学、インストラクショナル・デザイン（ID/教育設計）。

津曲　陽子
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　助教）
九州大学教育学部卒業。同大学院人間環境学府修士課程修了、同大学院人間環境学府博士課程修了（博士（心理学））。九州大学研究戦略企画室学術研究員を経て、2013 年 1 月より愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室・特任助教。専門は、社会心理学、大学教育学。現在は、大学間連携共同教育推進事業「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム」（代表校：愛媛大学）において、学生のリーダーシップ養成に従事している。

■プログラム概要

近年、グループワークは学生の主体的な学びを促す手法の一つとして注目を集め、多くの授業で導入されています。しかしながら、授業担当者から「グループワークを導入したものの、効果的な学習を促せているという実感がない」といった、効果を疑問視する声が少なくありません。

そこで本セミナーでは、グループワークを活用するための基本的な知識を学ぶとともに、授業にグループワークを組み込み、効果を上げるためのコツについて、実際のグループワーク体験や参加者同士の意見交換を通して学びます。

「グループワークを導入したいけど、どうやって進めてよいかわからない」「学生が積極的にグループワークに参加するためのコツを知りたい」など、授業改善にグループワークを活用したいと考えている多くの方々の参加をお待ちしております。

■主な受講対象

グループワークに興味がある教員
グループワークを授業に導入したい教員
グループワークを活性化させたい教員

■本プログラムの到達目標

1. 学生がいきいきとグループワークに参加できる仕組みについて説明することができる
2. 現状よりも活発なグループワークをしかけることができるようになる

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月22日（木）10：00～12：00
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　共通教育講義棟　2階　23番教室
定　　員　：　50名

ＳＤ

プログラム番号　08221B

職員のためのキャリアアップ講座

ー科研費を題材にしてー

■講師

阿部　光伸
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　特任助教）
東北大学大学院教育学研究科修了。専門学校での15年の教員生活を経て、平成15年から東北文化学園大学に勤務（学生課長、教務部長、学園事務局部長）。平成23年度科学研究費補助金・奨励研究に大学職員として応募した「教職協働を実現するPBLを利用した大学職員の能力開発に関する研究」が採択。平成24年4月から現職。
（H24 年度 SDC 認定）

野口　悟
（高知大学　研究国際部　学術情報課　情報係　係長）
広島大学大学院理学研究科修了理学修士。高知大学で10年間勤務（国立室戸青少年自然の家に3年間出向）。平成24年度科研費（奨励研究）「大学職員による外部資金獲得サポート業務の実態調査及びサポート手段の比較検討」が採択。平成21年4月から主に科研費の事務手続きを担当し、平成24年8月から医学系大学院生の教務業務を担当。平成25年8月より現職。

■プログラム概要

昨今、大学職員のキャリアアップ（ここでは「従来OJTで行われてきた業務スキルの深化・専門性の向上」とします）や能力開発の必要性が取りざたされています。

このプログラムでは、教員が主たる対象となっている「科学研究費助成事業（科研費）」の中で、職員もアプライできる種目「奨励研究」(教育・研究機関の職員が、大学等の研究機関で行われないような教育的・社会的意義を有する研究)を具体的題材にして、キャリアアップ、能力開発の方法について学びます。研究プロセスは、自らの業務を振り返りブラッシュアップすることにもつながり、奨励研究に採択されると、「外部から客観的な評価」を受けることとなります（＝キャリアアップ）。さらに、研究遂行の過程で、「マネジメント能力の開発」（＝能力開発）も身につきます。

このプログラムの受講者が、自己のキャリアアップや能力開発の手段の一つとして、科研費の応募にチャレンジすることを期待しています。

■主な受講対象

キャリアアップに興味のある職員
マネジメント能力の開発に関心のある職員
科研費「奨励研究」へのアプライを考えている職員

■本プログラムの到達目標

1. 大学職員のキャリアアップとは何かを説明することができる
2. キャリアアップする方法の一つとして科研費が有用であることを説明出来る
3. 科研費「奨励研究」応募の際に重要になるポイントを説明できる

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月22日（木）10:00～12:00
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　愛大ミューズ　2階　M23教室
定　　員　：　40名

ＳＤ

プログラム番号　08221C

職員向けマネジメントセミナー
ーもし、あなたの大学にドラッカーがいたらー

■講師

秦　敬治
（愛媛大学　教育・学生支援機構教育企画室　副室長　教授）
西南学院大学商学部経営学科卒業。九州大学大学院人間環境学研究科発達・社会システム専攻修士課程修了。同専攻博士課程単位修得満期退学（教育学博士）。学校法人西南学院本部・大学経理課係長（主査）、愛媛大学経営情報分析室助教授、教育企画室准教授を経て現職。

清水　栄子
（愛媛大学　教育・学生支援機構教育企画室　助教）
安田女子大学文学部英語英米文学科卒業。桜美林大学国際学研究科大学アドミニストレーション専攻修士課程修了。広島大学教育学研究科人間科学専攻博士課程修了（博士（教育学））。安田女子大学職員（企画室・庶務課・教務課・学生課）、公立大学協会事務局主幹、独立行政法人国立高等専門学校機構阿南工業高等専門学校 FD 高度化推進室特命講師を経て、2013 年 4 月より現職。

■プログラム概要

マネジメントは、一般的に管理と訳されますが、組織の目的を達成するために必要となるあらゆる要素を組み合わせて効果的に機能させることです。ドラッカーは、マネジメントには基本とすべきもの、原則とすべきものがあると説明しています。大学職員にとってのマネジメントとはどういうものでしょうか？　職員は所属大学の理念、ビジョンの達成のためにマネジメントを担っており、必ずしも管理職のみに求められているものではありません。

本セミナーでは、ドラッカーのマネジメント理論に関するレクチャーを行います。さらに、ワークを通じて、参加者自身の所属大学の担っている役割を再確認し、それに準じて自身や仲間の強みを大学運営に活かすマネジメント理論を修得します。

■主な受講対象

事務職員であればどなたでも OK です。

■本プログラムの到達目標

1. 大学の理念・ビジョンに基づいてマネジメントすることの重要性を説明できる
2. 所属大学の担っている役割を再認識することができる
3. 仲間や自らの強みを活かす大学マネジメント理論を説明することができる

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月22日（木）10：00～12：00
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　愛大ミューズ　2階　M24教室
定　　員　：　60名

ＦＤ・ＳＤ共通

プログラム番号　08221D

ツールを使ってコミュニケーション
－自己理解と他者理解－

■講師

野口　里美
（香川大学教育学部総務係長）
昭和 61 年香川大学採用。総務、会計、学務を一通り経験した後、今年 4 月に現在の部署に配置換え。昨年度まで FD 関係業務を担当し、SPOD 設立当初からネットワークコア校の FD 担当事務として携わっていた。SPOD 研修プログラムでは、「SPOD－SD プログラム開発セミナー」、「ファシリテーター養成講座」、「FDer 養成講座」を受講。また、外部団体主催の「はじめてのワールド・カフェ」、「ワールド・カフェ・ファシリテーター養成コース」等セミナーに参加し、「SPOD フォーラム 2012」で「ワールド・カフェ」の講師を担当。昨年度、外部団体主催の「SPT アドバイザー養成講座」、「SPT　セルフカウンセラー養成講座」を受講。

■プログラム概要

　このプログラムでは、「SP　トランプ」というツールを使って、コミュニケーションの方法を考えていきたいと思います。SP（サブパーソナリティ）トランプとは、人間の持つ様々な面を一つひとつ取り上げ準人格化し、独立させた SP をトランプ形態にしたものです。多くの人にみられる代表的な SP にニックネームをつけてそれぞれのトランプに書いてあります。「自己理解」、「他者理解」、「他者とのコミュニケーション」、「自己成長」の教材として、楽しくそして役立つように開発されたものです。

　職場での活用例としては、学生支援のツールとして、学生対象の「自己理解」「自己成長」をテーマとした研修、就職支援や学生相談等に活用できます。また、職場での上司や部下、同僚とのコミュニケーション方法を知る上でも有効です。

　本プログラムでは、みなさんに　SP　トランプとは何か、どのようなことができるのかを知っていただき、実際に体験していただくことで、大学現場でどのように活用することができるかをグループで検討し、全体で共有します。

■主な受講対象

ツールを使ったコミュニケーションに興味のある教職員ならどなたでも

■本プログラムの到達目標

1. SP トランプの特徴と使用方法を説明することができる
2. SP トランプの活用例を説明することができる
3. SPトランプを使ったコミュニケーションを行うことができる
4. SPトランプを使って、自己理解・他者理解を深めることができる

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月22日（木）10：00～12：00
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　愛大ミューズ　3階　M32教室
定　　員　：　28名

ＦＤ

プログラム番号　08221E

ルーブリック評価入門　ー考える、つくる、活用するー

■講師

俣野　秀典
（高知大学　総合教育センター　大学教育創造部門　講師）

北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科修了。地域科学研究会・高等教育情報センター研究員を経て、2009 年より現職。成績評価をはじめとした教育評価を中心に、FD を含めた“Educational Development”に取り組む。教育プログラム開発部会長（2010 年～）および課題探求実践セミナー分科会長（2012 年～）として、課題探求型授業の開発・支援に携わる。

■プログラム概要

成績評価について、多様な評価基準を設定することが求められております。ある大学の『シラバス入力手順説明書』では、“具体的な評価基準はルーブリック評価シートを事前に配布し、配点 30 点とする”との例が示されたりしており、「ルーブリックって何？？」と戸惑われた教員の方も多いと聞いております。

そこで本プログラムは、成績評価の目的・意義から出発して、高等教育において近年注目が集まっているルーブリック評価についての基本的な考え方を理解することを目的として実施されます。

※ルーブリックとは、「目標に準拠した評価」のための「基準」づくりの方法論であり、評価指標として活用されます。本プログラムでは、学生が何を学習するのかを示す評価規準と学生が学習到達しているレベルを示す具体的な評価基準を示すマトリクスからなる分析的ルーブリックを主に取り上げます。

■主な受講対象

目標に準拠した評価方法を習得したい教員

■本プログラムの到達目標

1. 目標に準拠した評価を心がけることができる。
2. ルーブリック評価の意義を説明できる。
3. ルーブリックを授業で活用するための準備ができる。

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月22日（木）10:00～12:00
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　愛大ミューズ　3階　M33教室
定　　員　：　40名

ＦＤ・ＳＤ共通

プログラム番号　08221F

学生の想いを聞き出す、引き出す
ー学生支援、はじめの一歩ー

■講師

塩崎　俊彦
（高知大学　総合教育センター大学教育創造部門　教授）

上智大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。専攻、日本文学。2007 年より高知大学総合教育センターで、FD研修プログラムの作成・実施や授業支援に取り組む。

吉田　博
（徳島大学　教育改革推進センター　助教）
愛媛大学理学部数理科学科卒業。同大学院理工学研究科博士前期課程修了。2009 年 4 月より現職。徳島大学全学FD推進プログラム、SPOD-FDプログラムなどを担当。

■プログラム概要

高等教育機関においても、学生支援のあり方について積極的な取組がなされるようになってきました。わたしたちは、さまざまな場面で学生とコミュニケーションをとる機会がありますが、それぞれの部署や立場によって学生への対応は一様ではありません。また、学生の置かれた状況などによっても、学生への接し方は異なってきます。

このプログラムでは、実際に学生と話し合う経験を通して、みなさんの学生とのコミュニケーションのあり方を振り返る機会とすることを目標にしています。

ペア・ワークやグループワークを行いながら、「学生の想いを聞き出す／引き出す」ためのヒントを探ってみましょう。

10:00 ～ 11:30 ミニ講義とグループワーク
11:30 ～ 12:15　学生とのペア・ワーク
12:15 ～ 12:45 ランチ・セッション（振り返り）

＊ ランチ・セッションは、昼食を食べながらのセミナーとなります。参加を希望される方は、昼食をご用意ください。

■主な受講対象

・学生に声をかけたいけど、最初の一言に躊躇している教職員
・いま学生支援の携わっている、あるいはこれから学生支援に携わってみたいと思っている教職員
・教育現場のさまざまな場面で、学生の本音を聞き出したいと思っている教職員
・ふだんは学生に接する機会が少ない部署にいるので、この機会に学生の思っている考えを直かに聞いてみたいと思っている教職員

■本プログラムの到達目標

1. 学生との実践を通じて、自らのコミュニケーションの良い点と改善点を振り返ることができる
2. 具体的な学生のニーズや想いに触れることで、参加者個々の実情に応じた学生支援に応用することができる

■日時・会場・受講定員

日　　時 ： 平成25年8月22日（木）10:00～12:45
会　　場 ： 愛媛大学　城北キャンパス　校友会館　2階　サロン
定　　員 ： 25名

ＦＤ

プログラム番号　08222A

学びを大学生の手にもどすための教育理論

■講師

富田　英司
（愛媛大学　教育学部　准教授）
香川大学教育学部卒、九州大学大学院人間環境学研究科単位取得退学（博士（心理学））、九州大学大学院人間環境学研究院の助手・助教を経て、平成 20 年より愛媛大学に着任。

■プログラム概要

学ぶのは学習者です。しかし、教育はその学びの内容や方法に対して、意図的あるいは非意図的に介入し、その社会の発展に貢献するよう方向づけるものです。そこで教師は教育の中心を教師に位置づけてしまうこともあります。しかし、馬を水辺に連れていけても水を飲ませることはできないと言われるように、それでも学ぶのは学習者です。この矛盾を孕んだ活動について学習者や教育を概念化し、矛盾を超えたところの学びを実現させることが専門職としての教師に求められていることです。

本プログラムでは、デューイ、ロジャース、ピアジェ、ヴィゴツキー、ブルーナー、自己決定理論、活動理論といった学習者中心の教育の系譜を形づくった主要な研究者や理論について学びます。このことに加えて、受講者が自分自身の教授学習理論を構築する機会を提供します。これらを踏まえて、実際に受講者が担当する授業をより学習者中心のものにするための実践的な計画を作成します。これらを通して大学の教師が 1 人でも多く、実践と理論を結びつけた知の再生産と創造の過程としての教育活動に参加できることをねらいます。

受講なさる方はご自身の担当する授業における課題や授業作りの信条などを改めて整理なさった上で当日に望んでいただけるとより効果的な学びが期待できます。また、ノート PC 等をお持ちの方は授業に持ってきていただけると便利かと思います。無くても受講はできます。

■主な受講対象

主に教育心理学領域の教授学習理論に関心をお持ちで、理論的背景を踏まえた授業実践に取り組んでおられる、あるいは取り組むことに関心をお持ちの方。

■本プログラムの到達目標

1. 学習者中心の教育を主張する1つ以上の理論について、その概要を説明することができる
2. 過去の主要理論との関連性を明らかにしつつ、学習者自身が独自の「学習者中心の教育」概念を定義することができる
3. 学習者中心の授業案を理論的背景と関連づけて構想することができる

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月22日（木）13：00～15：00
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　共通教育講義棟　2階　23番教室
定　　員　：　35名

ＳＤ

プログラム番号　08222B

後輩ができた若手・中堅職員のための観察力養成講座

■講師

仲道　雅輝
（愛媛大学　総合情報メディアセンター兼教育企画室　助教）
日本福祉大学社会福祉学部卒業。熊本大学社会文化科学研究科教授システム学専攻博士前期課程修了。平成 7 年から日本福祉大学事務職員、平成 23 年より愛媛大学にて FD・SD や学生能力開発、授業コンサルテーションに携わる。研究課題は全学的 e ラーニング推進と ICT 活用教育の普及。専門は教育工学、インストラクショナル・デザイン（ID/教育設計）。

津曲　陽子
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　特任助教）
九州大学教育学部卒業。同大学院人間環境学府修士課程修了、同大学院人間環境学府博士課程修了（博士（心理学））。九州大学研究戦略企画室学術研究員を経て、2013 年 1 月より愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室・特任助教。専門は、社会心理学、大学教育学。現在は、大学間連携共同教育推進事業「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム」（代表校：愛媛大学）において、学生のリーダーシップ養成に従事している。

久保　秀二
（愛媛大学　総務部人事課人事政策チームリーダー）
大東文化大学を卒業後、民間会社を経て愛媛大学事務職員に採用。高知大学、弓削商船高等専門学校での勤務を経験後、愛媛大学に復帰。主に人事、給与の業務に従事し、平成 24 年度から現職。職員の採用活動や人事制度の企画・立案に取り組んでいる。SPOD講師養成研修修了生。

■プログラム概要

職場等で後輩ができたら、役職についていなくともリーダーとしての対応を行わなくてはなりません。そのために、先輩であるあなたには後輩との真のコミュニケーション力が求められます。あなたは、日頃、同僚や後輩の何を観察していますか。相手の心身の状態を正確に把握し、適切な対応をおこなうためには、表面的な情報だけでなく、その奥にある真の情報をつかむための観察力を養うことが必要です。優れた観察力をもつ先輩（リーダー）は、周囲からの信頼を得られるだけでなく、業務の効率化やパフォーマンスの向上を実現することができるからです。本セミナーでは、グループワーク等を通して、先輩（リーダー）という立場にある者に観察力が重要である理由やチームや個人の目標達成を支援するために必要な観察力を高めるコツを学びます。

■主な受講対象

大学職員（若手・中堅）の方

■本プログラムの到達目標

1. 先輩（リーダー）として、観察力の重要性を説明できる
2. 後輩（メンバー）に関心をもつ意味と観察力の関係を説明できる
3. 日常・非日常の中での言動、表情等から観察するコツを述べることができる
4. 後輩（メンバー）との関わりの中で、観察力を活用すると効果的だと考える行動を1つ以上挙げることができる

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月22日（木）13：00～15：00
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　愛大ミューズ　2階　M23教室
定　　員　：　40名

プログラム番号　08222C

トップリーダーセミナー

大学改革を行う上でのトップマネジメント

～金沢工業大学の教育改革と教学マネジメント～

■講師

石川　憲一
（金沢工業大学　学長）

金沢大学工学部精密工学科卒。同大学大学院工学研究科修士課程(精密工学)修了。1970 年 4 月に金沢工業大学講師に就任。それ以降同大学の教授，教務部長，副学長などを歴任。1994 年 6 月に第 5 代学長に就任。『知識から知恵に』をキーワードとする教育改革を成功させることによって，グローバルな視点を有する将来有為の人材『自ら考え行動する技術者』を育成し，産業界に雄飛させることを目指している。

■プログラム概要

経営者・管理者を対象とした高等教育「トップリーダーセミナー」には，朝日新聞出版から発行されている「大学ランキング」でも常に教育改革のトップとして名前の挙がる金沢工業大学の石川学長をお招きし，金沢工業大学において，どのように教育改革や教学マネジメントを行っているかについてご講演いただきます。また，金沢工業大学が全国的に注目されるようになった背景などについて，個別の素晴らしい教育活動の紹介を織り込みながら，それがなぜ可能だったのかという点について学長目線でお話しいただきます。

■主な受講対象

大学経営職・管理職の立場にある教職員、将来経営・管理職を目指す教職員、教学マネジメントに関心のある教職員

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月22日（木）13：00～15：00
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　愛大ミューズ　2F　M24教室
定　　員　：　100名

ＦＤ

プログラム番号　08222D

授業アンケートを活用した授業改善

■講師

澤田　忠幸
（愛媛県立医療技術大学　保健科学部看護学科　准教授）
京都大学大学院文学研究科（心理学専攻）博士課程単位取得満期退学。2004～2007 年度の 4 年間、愛媛県立医療技術大学 FD 委員を務める。授業評価アンケートの導入に携わるとともに、その後も心理学の観点から授業評価アンケート研究に取り組む。また、2009 年度より初年次教育の企画・運営を担当している。2012 年度第 1 期 MOST フェロー（京都大学高等教育研究開発推進センター）。

■プログラム概要

今日ほぼ全ての大学で、授業アンケートが実施されています。実施することが当たり前となった一方で、一時のブームは過ぎ去り、実施の形骸化や効果への疑問の声も指摘され始めています。

その背景には、導入期のような授業アンケートに対する信頼性や妥当性、あるいは学生の評定能力に対する疑念や感情的拒否感とは異なり、授業アンケートの結果をどのように解釈し、どのように活用すればよいのかといった戸惑い、アンケートを実施しても授業や学生の学修の改善につながらない、実施する意味はあるのかという、ルーティン化された中での「やらされ感」があるように感じられます。

この研修会では、ご持参いただいた授業アンケートを使いながら、「授業アンケートで何が分かるのか」「どうすれば授業の改善に結びつけることができるのか」について、大学組織にとって、あるいは教員個人にとって、様々な視点から一緒に考えてみたいと思います。

■主な受講対象

教員（所属機関で実施されている授業アンケート用紙をご持参ください。また、ご自身で作成され、活用されているものがあれば、あわせてご持参ください。）

■本プログラムの到達目標

1. 授業アンケートの種類、目的、効果と限界を説明することができる
2. 現在使用している授業アンケートの特徴を説明することができる
3. 授業アンケートを活用して、授業改善を行う手だてを見つけることができる
4. 授業アンケートをより良いものするための工夫や改良点を考案することができる

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月22日（木）13：00～15：00
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　愛大ミューズ　3階　M32教室
定　　員　：　40名

大学院生・学生

プログラム番号　08222F～08231F

四国キャンパス元気プロジェクト2013
―きゃんぱす*こらぼれ～しょんー①②③④

■講師

塩崎　俊彦
（高知大学　総合教育センター大学教育創造部門　教授）
上智大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。専攻、日本文学。2007 年より高知大学総合教育センターで、FD研修プログラムの作成・実施や授業支援に取り組む。

吉田　博
（徳島大学　教育改革推進センター　助教）
愛媛大学理学部数理科学科卒業。同大学院理工学研究科博士前期課程修了。2009 年 4 月より現職。徳島大学全学FD推進プログラム、SPOD-FDプログラムなどを担当。

■プログラム概要

今回のテーマとなる「きゃんぱす*こらぼれ～しょん」とは、異なる大学から教職員や学生が集まるSPODフォーラムの場で、〇〇大生×□□大生、学生×教職員、〇〇大学×□□大学といった多様な価値観を持つもの相互のコラボレーション=協働をイメージしています。

異なる環境で過ごす大学生同士が意見を交わすことで、異なる価値観を受容しながら自分の考えを深めていきながら、「何かをやってみよう」という強い想いをもてるようになればと考えています。

教職員のみなさんの懇親会の際には、学生たちが話し合ったテーマについて、学生たちが教職員のみなさんの意見をうかがうことになります。そうした活動を通じて、今後の学生生活をどのように過ごしていくかを考える機会となることをめざしています。

■主な受講対象

SPOD加盟校の大学院生・学生

■本プログラムの到達目標

1. 他大学の学生・教職員と本音を出し合えるようなコミュニケーションができる
2. 自らの大学に戻り、何かに取り組みたい！というモチベーションを持つ

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月22日（木）11：30～17：30、8月23日（金）9：00～12：30
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　校友会館　2階　サロン
定　　員　：　40名

ＦＤ・ＳＤ共通

プログラム番号　08223H　シンポジウム

ポートフォリオは大学教育の質向上に貢献できるか？

■講師

藤本　元啓
（金沢工業大学　入試部長　基礎教育部　修学基礎教育課程　教授）
皇學館大学大学院文学研究科博士後期課程(国史学専攻)修了後、皇學館大学史料編纂所研究嘱託、熱田神宮学院講師、皇學館大学非常勤講師等を経て、2002 年より現職。専門は初年次教育・日本中世政治史・軍事史など、多方面に造詣が深く、最近の主たる研究テーマは、初年次教育の授業法、ポートフォリオに関する実証的研究など。

栗田　佳代子
（東京大学　大学総合教育研究センター　特任准教授）
東京大学大学院教育学研究科修了後、カーネギーメロン大学 Visiting Scholar、大学評価学位授与機構研究開発部准教授等を経て、2012 年より現職、博士（教育学、2002 年、東京大学）。現職では、大学教員を目指す大学院生を対象とした「フューチャーファカルティプログラム」を担当。専門は教育・心理統計、ファカルティ・ディベロップメント、教員評価。P・セルディン氏に師事し、ティーチング・ポートフォリオ、アカデミック・ポートフォリオの”正しい導入”について、ワークショップ開催や翻訳、講演等を通じた実践的な研究を行っている。

吉田　一惠
（愛媛大学　総務部人事課　課長（危機管理室　副室長兼務）
愛媛大学法文学部法学科卒業。愛媛大学理学部，医学部，農学部，研究協力部，国際交流センターで主に総務，国際交流を担当，広報室副室長（命室長），広報室長を経て現職。広報室時から現在まで危機管理室副室長を兼務し，記者会見等を所掌，報道対応マニュアル等を作成，現在は，特に人権侵害事案に対応すると共に人材育成（SD）に取り組んでいる。

司　会　：　佐藤　浩章（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室　副室長・准教授）

■プログラム概要

大学教育の質向上のツールとして、ポートフォリオが注目されています。ポートフォリオとは、持ち運びできる（portable）二つ折りの紙（folio）という語源があり、学習内容をまとめる書類入れ（ファイル）のことを意味します。

学生の学習内容については学習（ラーニング）ポートフォリオがあり、量的な測定がしにくい判断思考、技能、態度といった能力の測定ツールとして、日本の大学にも普及し始めています。教員についてはティーチング・ポートフォリオ（教育業績記録）もしくはアカデミック・ポートフォリオがあり、教員の教育業績もしくは全般的な業績の厳選した記録として、FD や業績評価ツールとして導入する大学が増えています。こうした考えを職員にも応用したものとして、スタッフ・ポートフォリオがあり、SD、キャリア開発、業績評価ツールとして導入している大学もあります。

SPOD では、これまでもポートフォリオを重視しており、教職員向けのポートフォリオ作成ワークショップを何度も開講してきました。

本シンポジウムでは、まず 3 人のパネリストに実践事例の提供をしてもらいます。学習ポートフォリオについては藤本氏、ティーチングならびにアカデミック・ポートフォリオについては栗田氏、スタッフ・ポートフォリオについては吉田氏にお話しいただきます。

後半部分では、ポートフォリオの意義、効果、普及方法について、パネリスト同士の討論を中心に進めていきます。参加者各人がポートフォリオの自分なりの意義づけができるようになることを目指します。また当日は、携帯電話やパソコンからのメールでも意見を受け付け、IT 機器を使ったインタラクティブなシンポジウムを作る試みも行う予定です。

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月22日（木）15：30～17：45
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　南加記念ホール
定　　員　：　220名

ＦＤ・ＳＤ共通

プログラム番号　08231A

会議マネジメント

■講師

秦　敬治
（愛媛大学　教育・学生支援機教育企画室　室長 教授）
西南学院大学商学部経営学科卒業。九州大学大学院人間環境学研究科発達・社会システム専攻修士課程修了。同専攻博士課程単位修得満期退学（教育学博士）。学校法人西南学院本部・大学経理課係長（主査）、愛媛大学経営情報分析室助教授、教育企画室准教授を経て現職。

大竹　奈津子
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　助教/SPOD-SDC）
愛媛大学農学部生物資源学科卒業。愛媛大学連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程満期退学。2009 年より愛媛大学教育企画室において、授業コンサルティングや授業改善、SD 等の教職員支援や学習支援に取り組む。専門は、高等教育開発学、水文学。

■プログラム概要

会議（ミーティング）は「意見の異なるもの同士が、議論の末に高次の合意点をみつけるもの」であることが望まれます。そのような会議を実現するために、会議を創造の場とするファシリテーションの重要性と、メンバーが主体的に参加し協力して会議を進めるための具体的なコツ（中立性、プロセス、チームワーク、傾聴、質問、記録、等）について学びます。

また、具体的な事例やグループワークを通して、本セミナー参加者とミーティングの在り方についての共通認識を行いながら、効率的・効果的なミーティングの意味・スキルを修得します。

■主な受講対象

新任教員

■本プログラムの到達目標

1. ファシリテーションの重要性について説明することができる
2. ミーティングの意味・スキルについて説明することができる
3. メンバーの意見をうまく引き出すための手法を説明することができる
4. メンバーから引き出された意見を効果的・効率的に構造化（分類）する手法について説明することができる
5. 協力的ではないメンバーも含めて合意形成する手法について説明することができる

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月23日（金）10:00～12:00
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　共通教育講義棟　2階　23番教室
定　　員　：　50名

ＳＤ

プログラム番号　08231～2B

SDC養成講座①②

■講師

秦　敬治
（愛媛大学　教育・学生支援機教育企画室　副室長　教授）
西南学院大学商学部経営学科卒業。九州大学大学院人間環境学研究科発達・社会システム専攻修士課程修了。同専攻博士課程単位修得満期退学（教育学博士）。学校法人西南学院本部・大学経理課係長（主査）、愛媛大学経営情報分析室助教授、教育企画室准教授を経て現職。

阿部　光伸
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　特任助教）
東北大学大学院教育学研究科修了。専門学校での 15 年の教員生活を経て、平成 15 年から東北文化学園大学に勤務（学生課長、教務部長、学園事務局部長）。平成 23 年度科学研究費補助金・奨励研究に大学職員として応募した「教職協働を実現するPBLを利用した大学職員の能力開発に関する研究」が採択。平成 24 年 4 月から現職。（H24 年度 SDC 認定）

米澤　愼二
（愛媛大学　教育学生支援部　部長）
愛媛県立川之石高等学校卒業後、国立大洲青年の家採用、国立特殊教育研究所、香川医科大学（現香川大学）、東京医科歯科大学、愛媛大学で勤務、主に人事系を中心に業務を行ってきたが、国立大学法人化後、広報室長、総務課長（この間危機管理室長兼務）、人事課長、教育学生支援部次長を経て現職。SPOD－SDコーディネーターとして認定され活動している。

■プログラム概要

SDC（Staff Development Coordinator）とは、SDの実践的指導者のことです。本プログラムでは、自大学の強みと課題を理解し、課題の解決策を見いだせる SDC の養成を目指します。また、SPOD が開発したスタッフ・ポートフォリオ（職員業績録）の有益性や導入例の紹介、自らがメンターとしてメンタリングを体験することにより、職員のキャリア開発手法を学びます。さらに、SDを担当できる講師養成及び人材育成ビジョン構築支援の手法を実践的に学びます。

なお、受講に際しては、事前にスタッフ・ポートフォリオを作成していただきます。

■主な受講対象

人材育成担当者、人事担当者、研修担当者、SD 講師を目指す職員

■本プログラムの到達目標

1. 職員人材育成ビジョンの必要性を説明できる
2. 自大学のSDの強みと課題を抽出することができる
3. スタッフ・ポートフォリオを作成でき、その有益性を説明することができる

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月23日（金）10：00～15：00
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　愛大ミューズ　2階　M23教室
定　　員　：　40名

ＳＤ

プログラム番号　08231C

インストラクショナル・デザイン（ID／教育設計）を活用した職員による企画・立案マネジメント

■講師

仲道　雅輝
（愛媛大学　総合情報メディアセンター兼教育企画室　助教）
日本福祉大学社会福祉学部卒業。熊本大学社会文化科学研究科教授システム学専攻博士前期課程修了。平成７年から日本福祉大学事務職員、平成 23 年より愛媛大学にて FD・SD や学生能力開発、授業コンサルテーションに携わる。研究課題は全学的 e ラーニング推進と ICT 活用教育の普及。専門は教育工学、インストラクショナル・デザイン（ID/教育設計）。

津曲　陽子
（愛媛大学　教育・学生支援機構教育企画室　特任助教）
九州大学教育学部卒業。同大学院人間環境学府修士課程修了、同大学院人間環境学府博士課程修了（博士（心理学））。九州大学研究戦略企画室学術研究員を経て、平成 25 年 1 月より愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室・特任助教。専門は、社会心理学、大学教育学。現在は、大学間連携共同教育推進事業「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム」（代表校：愛媛大学）において、学生のリーダーシップ養成に従事している。

■プログラム概要

本プログラムでは、問題解決手法であるインストラクショナル・デザイン（ID）を理解し、その後、ワークショップ形式にて、自身の業務実践の場に活かせる業務の効率化や課題解決に向けた方策が見出せるようになることを目指します。まず、自身の大学で業務や教育の改善・改革を推進したいと考えている事柄を取り上げるところからはじめ、一般的に改革を推進する上で、ポイントとなる現状分析を丁寧に行います。次に、目標とのギャップを明確に認識し、ゴールに向けて方略・戦略をデザインするための方法論を学び、改革の一端を担う際の効果的な思考を身につけます。

■主な受講対象

大学職員（若手・中堅）の方

■本プログラムの到達目標

1. インストラクショナル・デザイン（ID）が課題解決の方法論であることを説明できる
2. 企画・立案にあたって、現状と到達目標とのギャップを明確化することの重要性が説明できる
3. 課題抽出のワークを通じて、自らの実践上の課題が明確化し、その内容が説明できる

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月23（金）10：00～12：00
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　愛大ミューズ　2階　M24教室
定　　員　：　40名

ＦＤ

プログラム番号　08231D

授業研究会、授業コンサルテーションのすすめ

■講師

川野　卓二
（徳島大学・教育改革推進センター・教授）
大阪教育大学　大学院教育研究科修了（教育心理学）。ユタ大学　大学院教育心理学研究科修了（学校心理学、統計学）。1997 年より徳島大学　大学開放実践センター勤務。2013 年 4 月より徳島大学　教育改革推進センターへ異動。徳島大学では 2004 年より全学FDを担当。

香川　順子
（徳島大学　教育改革推進センター　准教授）
大阪大学大学院　人間科学研究科修了（教育工学）。同研究科特任研究員を経て、2007 年 10 月より徳島大学　大学開放実践センター勤務。2013 年 4 月より徳島大学　教育改革推進センターへ異動。徳島大学では、全学 FD を担当。

宮田　政徳
（徳島大学・教育改革推進センター・准教授）
広島大学大学院　文学研究科修了（英語学）。2001 年 10 月より徳島大学大学開放実践センター勤務。2013 年 4 月より徳島大学　教育改革推進センターへ異動。徳島大学では 2002 年より全学FDを担当。

■プログラム概要

授業研究会、授業コンサルテーション（教員個人の授業改善を支援するコンサルタントと共に、授業の質を高めていくための活動）について初歩的な事から知りたいという方、授業研究会や授業コンサルテーションの企画を考えておられる教職員の方々を対象に、個人ワーク、グループワークを通して情報交換を行いつつ進めていきます。

徳島大学では、２００５年度より「授業コンサルテーション・授業研究会」を実施してきました。徳島大学の事例や、他大学の事例も参考にしながら、自校の状況に沿った授業研究会や授業コンサルテーションについて考えます。今回は、これまで授業コンサルテーション、授業研究会に携わってきたスタッフがファシリテーターとなり、みなさんと一緒に考えていきます。どうぞお気軽にご参加ください。

■主な受講対象

部局の教育改善FD関係者

■本プログラムの到達目標

1. 授業研究会、授業コンサルテーションの形式とその目的を説明できる
2. 自校の状況に沿った授業研究会、授業コンサルテーションを具体化できる
3. 参加者同士の交流を通して、授業研究会、授業コンサルテーションに関する情報共有を行うことができる

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月23日（金）10:00～12:00
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　愛大ミューズ　3階　M32教室
定　　員　：　30名

ＦＤ・ＳＤ共通

プログラム番号　08231～2E

プレゼンテーションの極意

ー聴き手を魅了する秘訣とは？ー①②

■講師

田中　省三
（愛媛大学　教育・学生支援機構　客員准教授）
龍谷大学非常勤講師（プレゼンテーション演習を担当）を経て、プレゼンテーション＆教え方の極意・事務局を設立、代表に就任し、全国各地で研修・講演を行う。東海大学チャレンジセンター准教授を経て、現職。全国各地の大学・各種団体・企業などで、「聴き手をひきつけるプレゼンテーション・スキル」、教員の方向けの「学生のやる気を引き出す教え方の極意」などの研修・セミナーを多数担当。

■プログラム概要

本プログラムは、前半と後半の二部構成ですが、必ず連続して受講して下さい。

プレゼンテーションや授業では、「構成」は設計図のようなもので、一番の基本となるものです。また、自分が伝えたいことがあっても、「話し方・伝え方」が良くないと、聴き手のハートに響きません。

① 前半では、プレゼンや授業全体をどのようにデザインするかというスキルと、タイトル作成の秘訣などを扱います。

② 後半では、声の使い方のポイント・ボディーランゲージなどのコツなどを、具体例を示しながら解説します。

これらを身につけて頂くことで、聴き手を引き付けるプレゼンや授業ができるヒントが得られます。ミニワーク、グループ・ワークの時間を何度も取りますので、参加される方は、自分がプレゼンテーションや話し方などで何に困っているのかを明確にして、ノートなどに書き出してからご参加頂けると、このプログラムは一層効果的なものとなります。

■主な受講対象

「人前で、もっとうまく話せるようになりたい！」「聴き手を魅了するプレゼンが、できるようになりたい！」と、本気でお考えの方

■本プログラムの到達目標

1. 聴き手が魅力を感じる「タイトル作成法」を習得できる
2. 聴き手を魅了するプレゼンテーションの「構成法」を身につけることができる
3. 聴き手を引きつける「話し方のコツ」（声の使い方・ボディーランゲージなどのポイント）をマスターできる
4. 上記の1～3を、授業・会議での報告・講演などで活用できる

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月23日（金）10:00～15:00
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　愛大ミューズ　3階　M33教室
定　　員　：　40名

ＦＤ・ＳＤ共通

プログラム番号　08232A

プロジェクト・マネジメントー事業の動かし方、事始めー

■講師

泉谷　昇
（NPO法人いよココロザシ大学　理事長　学長）
１９７１年東京都出身。高校卒業後、渡米。映画製作などを学び帰国。事業コンサルティング業務を経て、２００１年、愛媛県へ移住。２００２年～２００８年、愛媛県観光課に勤務。「世界の中心で愛をさけぶ」「HERO」「坂の上の雲」など４００本以上の映画、映像作品の撮影支援に従事。２００８年～２０１１年、松山市観光産業振興課に在籍し、誘客企画、撮影支援に従事。２０１１年、「誰でも先生、誰でも生徒、どこでもキャンパス」を掲げ『いよココロザシ大学』設立。企画立案、プレゼンテーション、事業運営を得意とする。

■プログラム概要

課題解決を後回しにして苦労した。」「やらなくてもいいことまでしてしまった。」「目的と目標が混同してしまった。」「リーダーが複数いてリーダーシップが発揮できなかった」「報連相が機能しなかった。」「IT ツールに振り回された。」こんな場面や事態に遭遇、経験したことはありませんか？

大学教員にとっては、自らの個人ならびに共同研究、卒業・修士・博士論文指導などはまさにプロジェクトです。プロジェクトの運営には「プロジェクトサイクル」「利害関係者の把握」「プロジェクトメンバーの役割」「目的・目標の設定」「リーダーシップ」などが欠かせず、各要素は密接に連動しています。本プログラムでは、プロジェクトの成功に求められる基礎的な知識や技術を学びます。講師のこれまでのプロジェクトの成功、失敗事例なども参考に学びます。

■主な受講対象

事業成功の鍵となる運営法について基本的な「型」が学べます。思い通りに事業が進められなかった経験をお持ちの方、今後、事業を運営する方など

■本プログラムの到達目標

1. 事業運営の基本的な「型」を理解できる
2. 事業運営に欠かせない視点を理解できる
3. 事業運営は特別なことではなく、誰でも運営できることが理解できる

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月23日（金）13：00～15：00
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　共通教育講義棟　2階　23番教室
定　　員　：　50名

ＳＤ

プログラム番号　08232C

若手・中堅職員のためのコーディネート力養成講座

■講師

仲道　雅輝
（愛媛大学　総合情報メディアセンター兼教育企画室　助教）
日本福祉大学社会福祉学部卒業。熊本大学社会文化科学研究科教授システム学専攻博士前期課程修了。平成７年から日本福祉大学事務職員、平成 23 年より愛媛大学にて FD・SD や学生能力開発、授業コンサルテーションに携わる。研究課題は全学的 e ラーニング推進と ICT 活用教育の普及。専門は教育工学、インストラクショナル・デザイン（ID/教育設計）。

津曲　陽子
（愛媛大学　教育・学生支援機構教育企画室　特任助教）
九州大学教育学部卒業。同大学院人間環境学府修士課程修了、同大学院人間環境学府博士課程修了（博士（心理学））。九州大学研究戦略企画室学術研究員を経て、2013 年 1 月より愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室・特任助教。専門は、社会心理学、大学教育学。現在は、大学間連携共同教育推進事業「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム」（代表校：愛媛大学）において、学生のリーダーシップ養成に従事している。

兒玉　健志
（愛媛大学　教育学生支援部附属学校園事務課　課長）
松山商科大学経済学部 1978 年 3 月卒業　同年 4 月愛媛大学職員採用以来、総務・人事系の業務に従事。定年まで 10 年を切った頃、大学の主役である学生に直接関わりたいと考え、上司に願い出る。2009 年 4 月に国際連携支援部国際連携課に配属され、4 年間国際関係業務を経験した後、2013 年 4 月から附属学校園事務課勤務。

■プログラム概要

仕事におけるコーディネートとは、何をどのようにすることなのでしょうか。目標達成のために部局や立場を超えて、必要なスキルや能力を備えた人を集めるだけでなく、チームの中で異なる分野(領域)・個々の利害による関係を調整し、全体の合意を形成し、向かうべき目標・ゴールまで着実に誘導していくこと、これが仕事におけるコーディネート力です。職場におけるコーディネーターという役割は、物理的なシステムでは解決できない、人にしか担当できない仕事と言えます。

本ワークショップでは、グループワーク等を通じて、チームの各メンバーがもつアイデアや意見、情報をうまく引き出し、まとめ、一つの目標達成に向かえるようにするまでのコーディネート力の実践とコツについて、学んでいただけると思っております。

■主な受講対象

大学職員（若手・中堅）の方

■本プログラムの到達目標

1. 異なる意見のまとめ方を説明できる
2. コーディネート力を高めていく要素・コツについて説明できる
3. コーディネート力の要素を使った行動のうち明日から実践できることを一つあげることができる

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月23日（金）13：00～15：00
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　愛大ミューズ　2階　M24教室
定　　員　：　40名

ＦＤ

プログラム番号　08232D

コミュニケーションで成績を上げる
チーム基盤型学習(TBL)の手法

■講師

立川　明
（高知大学・総合教育センター・准教授）
高知大学理学部化学科卒。九州大学大学院分子工学専攻前期博士課程修了。高知大学理学部助手。高知大学大学教育創造センター（現総合教育センター大学教育創造部門）准教授。SPOD フォーラムでアクティブラーニングの講習を担当。

■プログラム概要

チーム基盤学習は協同学習の要素が盛り込まれ、知識をたくさん取り扱いたい授業に適したアクティブ・ラーニングの手法です。200 人のクラスでもひとりの教員でコントロールできるとか、時間外学習が確実に 30 分増えると言った特徴があり、知識獲得と同時にコミュニケーション能力を高め、楽しく成績が上げられます。

この研修では、TBL の一連の流れを、体験していただくことによって、ご自分の授業に取り入れるための準備ができるようになります。また、実際に授業に取り入れる場合、どのような注意が必要かについても解説いたします。

■主な受講対象

授業で知識をたくさん扱いたい、効率よく学生に記憶させたい、学生を元気にしたい教職員。

■本プログラムの到達目標

1. TBL の流れが説明できる
2. TBL の効果として期待できることが説明できる
3. TBL のための良い問の3つの条件が説明できる

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月23日（金）13：00～15：00
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　愛大ミューズ　3階　M32教室
定　　員　：　40名

ＦＤ

プログラム番号　08232F

教養教育を担当する教員のための授業づくり講座

■講師

齊藤　隆仁
（徳島大学　大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部　准教授）
東京理科大学理学部卒業。東京都立大学理学研究科博士課程中退。専門は物理学。

吉田　博
（徳島大学　教育改革推進センター　助教）
愛媛大学理学部数理科学科卒業。同大学院理工学研究科数理科学専攻博士前期課程修了。専門は数学、大学教育。2009　年度から、徳島大学で全学 FD の企画・運営に携わる。

■プログラム概要

このプログラムでは、自身が実施してきた、これまでの教養教育の授業を振り返り、また新しく教養教育の授業を設計しようと考えている方は、学生に伝えたいことをイメージし、今後の授業の中で、新しく取り組むことを 1 つ以上見つけることを目標にします。はじめに教養教育の授業を設計する上で、大切にするべきことや教養教育の授業で目指すべき一般論を紹介します。続いて、皆さんが実施している教養教育の授業における、「悩み」や、これから作りたい授業において「挑戦したいこと」を明確にします。次に、皆さんが取り組んでいる授業方法や特にこだわっている点などを共有することで、課題解決のヒントを見つけます。最後に、後期以降の教養教育の授業において、新しく取り組むことを考え、参加者の皆さんと自分自身に対して取り組みの宣言を行います。自身の教養教育の授業を考え直してみたい方、新しい教養教育の授業を模索中の方など、「教養の授業」について考えてみたい方の参加をお待ちしております。

■主な受講対象

教養教育を担当する教員

■本プログラムの到達目標

1. 自身の教養教育の授業における疑問や悩みを解決するためのヒントを得ることができる
2. 今後の教養教育の授業において、新しく取り組むことを 1 つ以上見つけることができる

■日時・会場・受講定員

日　　時　：　平成25年8月23日（金）13：00～15：00
会　　場　：　愛媛大学　城北キャンパス　校友会館　2階　サロン
定　　員　：　30名